

+

## I . 視察調査

## I. 視察調査

### 1. 民謡や楽器のアーカイヴスに関わる先行事例

#### 北海道立アイヌ民族文化研究センター

(北海道札幌市 2004年6月7日 大槻・柳沢・小西)

#### 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

(北海道札幌市 2004年6月7日 大槻・柳沢・小西)

#### 国立民族学博物館情報企画課

(大阪府吹田市 2004年7月6日 柳沢・小西)

これらの施設は、国内における民族文化資料収集および研究の拠点として数えられるものである。今回の訪問目的は、各施設において音源映像資料を中心としたアーカイヴスがどのように構築されているか、またそこでいかなる問題点が生じているかを把握し、今後の調査研究の参考にすることであった。各担当学芸員への聴き取りとデータベース化したサンプルの視聴を行ったところ、メディアの変化対応した保管やデータベース化に際しての技術的な問題、個人情報保護の観点からインターネットを含めた一般公開に関する留意点などについて示唆を得た。結果的に、時代の変化に対応した資料保管のむずかしさを再認識することになった。

#### 国立歴史民俗博物館

(千葉県佐倉市 2004年10月24日 柳沢)

#### 江戸東京博物館

(東京都墨田区 2004年9月11日 大槻／2004年10月26日 柳沢)

#### 大阪歴史博物館

(大阪府中央区 2005年11月19日 柳沢)

これらの施設では、日本及び世界の音源映像資料のアーカイヴスの現状、インターネットを含めた一般公開に関する留意点などについて示唆を得た。特に国立歴史民俗博物館では茶器の調査を行い、1403年(応永10年)茶売人道覚の一服一銭の資料を閲覧した。

#### 横浜市歴史博物館

(横浜市 2006年2月1日 柳沢)

この博物館では横浜市の歴史について視察した。開国と共に訪れた外国人建築家の足跡や、西洋音楽が日本に最初に入ってきたことに関してのことなど、演奏に関する貴重な資料を入手した。写真 (I-1)の冊子には、1854年3月アメリカ合衆国東インド艦隊ペリー提督の上陸に際してはじめて横浜で西洋楽器が演奏された様子や、横浜が西洋楽器の製造発祥の地となり、1945年くらいまで風琴・洋琴と呼ばれていたオルガンやピアノなどの西洋楽器の製造地として栄えていたことが記されている。



写真 1-1 横浜風琴洋琴ものがたりの表紙

## ベルリン州立民族博物館

(ドイツ・ベルリン 2004 年 9 月 3 日～5 日 柳沢・小西)

ドイツ、オーストリアは、19 世紀末からアフリカやオセアニアの植民地やアジア地域における民族資料の収集を盛んに行ってきたという、歴史的に長いアーカイブスの歴史をもつ。そこには、開発され間もない録音技術を使った蝋管録音による音源資料も含まれており、その一部は CD 化され一般にも販売されている。今回の調査では、アーカイブスの内部に立ち入る余裕はなかったが、どのような収集品がどのようなかたちで展示されているかという実態を視察することが主たる目的であった。その結果、楽器展示コーナーの一角にパソコンが設置され、見学者が地図上で示した地域の音源を再生できるような装置も設置されていることがわかった。しかしながら、それは収集資料のごく一部に過ぎず、貴重な音源資料の活用にはまだまだ時間がかかるという印象を受けた。

## ニューヨーク市立博物館

(アメリカ合衆国・ニューヨーク 2005 年 9 月 2 日 柳沢)

昨年のヨーロッパ視察に引き続き、今年は世界最大の移民の国であるアメリカ合衆国にて、音楽事情及び茶文化に関する調査、視察を行った。この国では経済、産業、文化の中心地としてエキサイティングしているニューヨークと、歴史の町として重要なボストンを訪ねた。

ニューヨークの歴史に関する様々なものが展示されているこの博物館では、1694 年から 1907 年までを 6 つの時代に分けて、その生活様式の変遷が展示されていた。茶器の用意された部屋では、ヨーロッパからの移民と同時に持ち運ばれた茶器が、日常生活で使用されていた雰囲気伝わってくる (カラー写真 34、35 参照)。又、5 階にはロックフェラー

ームと称される部屋があり、居間、寝室と共に当時演奏された燭台つきのピアノが置かれていた（カラー写真7参照）。当時のアメリカ上流社会の人々の生活の様子をうかがい知ることができた。

## ピーボディー博物館

（アメリカ合衆国・ボストン ハーバード大学内 2005 年 9 月 5 日 柳沢）



写真 I-2 寄贈者ハーバードの像  
（2005-9-5 於：ボストン ハーバード大学  
撮影：柳沢信芳）



写真 I-3 ハーバード大学キャンパス風景  
（2005-9-5 於：ボストン ハーバード大学  
撮影：柳沢信芳）

本博物館を有するハーバード大学は、1636 年に創立されたアメリカ最古の大学。門を入ってまもなくハーバードの銅像が目に入り（写真 I-2）、一般市民も自由に出入りできる手入れの行き届いたキャンパス風景が印象的であった（写真 I-3）。

様々な研究所や図書館と共に、ここには美術館、博物館合わせて7つあるが、その中のピーボディー考古学と民族学博物館を見学した（写真 I-4）。館内は太古から現代までの人類



写真 I-4 ピーボディー博物館外観  
（2005-9-5 於：ボストン、  
ハーバード大学 撮影：柳沢信芳）



写真 I-5 北アメリカインディアンの写真と日常生活品  
（2005-9-5 於：ピーボディー博物館  
撮影：柳沢信芳）

の歴史、芸術作品などが展示されており、マラカスや笛を見ることができた。写真 I-5 はアメリカインディアンの部屋でこの写真の中央上に2つのマラカスが見える。マラカスは現在、中南米に広く分布しているものである。

## 2. 民謡の再創造に示唆を与える先行的施設

### 白老ポロトコタンのアイヌ民族博物館

(北海道白老市 2004年6月8日 大槻・柳沢・小西)

### シベリウス博物館

(フィンランド、トゥルク 2004年9月1日 小西)

### モーツァルト博物館

(オーストリア、ザルツブルグ 2004年8月27日 柳沢)

これらの施設では、古今東西で民謡がいかに音楽作品として再創造されたか（されているか）をその歴史的・文化的背景とともに把握した。とりわけアイヌ民族博物館では、若い文化の担い手が育成され、再創造されたアイヌの歌や舞踊に参加しており、今後の茶歌再創造と演奏による地域活性化の参考になった。また、民謡の再創造を行った作曲家たちにゆかりのある施設では、その後の保存を考える参考となった。

## オーストリア・ドイツ・チェコにおける音楽及び茶文化の事情

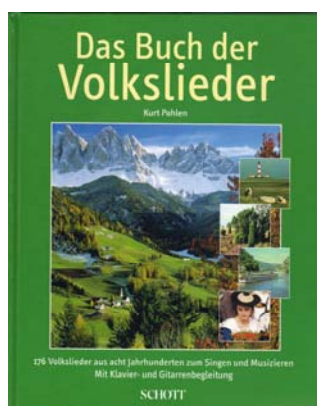


写真 I-6 ドイツ民謡の本の表紙  
(2004-8-24 於：ウィーン  
ムジーク・ミュラーにて購入)

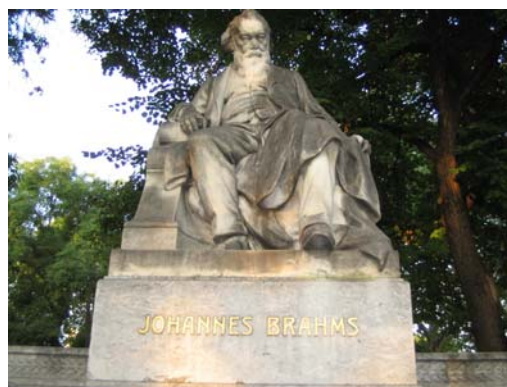


写真 I-7 ブラームス像の前で  
(2004-8-24 於：撮影：柳沢信芳  
カールス広場 ウィーン)

かつてオーストリア帝国として栄えた国の首都ウィーンは、音楽の都として現在もなおその歴史を背負っている。街中を歩いていても公園や広場に著名な作曲家の像が設置されていた。写真 I-7, I-8, I-9 のブラームス、シューベルト、ヨハン・シュトラウスの像は街の中心地から近いところにあるが、彼らの作品の背景にはオーストリア、ドイツの民謡から影響を受けて作られたものも多くみられる。写真 I-6 はドイツ民謡集の1冊である。例えばブラームスのソナタ第1番、第2楽章の主題は古いドイツの民謡に基づくものであ



った。



写真 I-8 竖琴を持つ乙女  
シューベルトの像に描かれたレリーフ  
(2004-8-25 於：ウィーン市立公園  
撮影：柳沢信芳)



写真 I-9 ヨハン・シュトラウスの像  
(2004-8-25 於：ウィーン市立公園  
撮影：柳沢信芳)

シューベルトは 20 曲のメヌエット (D41) の他、17 のドイツ舞曲 (D366) など沢山の舞曲を作曲しており、これらの要素がソナタや即興曲の構成を裏付けていることをうかがい知ることが出来た。ワルツ王と呼ばれているヨハン・シュトラウスはウィーンや南ドイツの在来のワルツに新しい独自性をもたせた。又、チェコ舞曲であるポルカを 117 曲、フランスから広まったカドリユも 73 曲作曲している。これらの作曲家を考察していくと民謡や、舞曲などその国の素材を基にしながらも国境を越えて全世界で演奏される作品を書いたことの偉大さを思い知ることができた。

ドイツに入り、フェッセンのノイシュバンシュタイン城を見学した。1864 年 R. ワーグナーをバイエルンに招待した国王ルードウィヒ二世はワーグナーのオペラを熱愛し、「ローエングリーン」などの名場面をこの城の中に描かせていた。「芸術は国民全体の芸術的表現でなければならない」をモットーとしていたワーグナーの思想を、彼に由縁のあるこの城を見学しながら改めて反芻した。(写真 I-10)

写真 I-11、I-12、I-13 はドレスデン、ベルリンでのものである。ここでは茶文化がどのように一般市民に提供されているかを主に視察した。写真 I-11 はドレスデンの駅前広場の店であるが陶器のポットや茶碗がところ狭しと並べられている。ドレスデン郊外のマイセンは陶器の名産地であるが、この市場近いところにあるツヴィンガー宮殿にはマイセンの部屋があり、様々な陶器が展示されていた。写真 I-12、I-13 はベルリンのショッピング通りでの展示。多種の紅茶の中に日本茶も置かれていた。ドイツ人の日常の生活では、コーヒー、紅茶が主であるが、このような形で緑茶が紹介されているのは一つには、現地の日本人向けに販売されていることと、ドイツ人の中にも緑茶を嗜好する人がいるとのこと。

音楽の世界で小澤征二のようにヨーロッパで活躍する人がいたり、又、日本企業の進出などと共に、日本のお茶文化がドイツ人社会に紹介されていく様子をうかがい知ることが

できた。



写真 I-10 ワーグナーゆかりの城  
(2004-8-29 於：フェッセン  
ノイシュバンシュタイン城 撮影：柳沢信芳)



写真 I-11 茶器などの日常品が並ぶ市場  
生活用品が楽しく陳列されている  
(2004. 9. 10 於：ドレスデン 撮影：柳沢信芳)



写真 I-12 日本語で表示されたショーウィンドウ (1) (2004-9-12 於：ベルリン キュルファーシュテンダム通り 撮影：柳沢信芳)



写真 I-13 日本語で表示されたショーウィンドウ (1) (2004-9-12 於：ベルリン キュルファーシュテンダム通り 撮影：柳沢信芳)

又、ベルリンでは古代ギリシャのペルガモンの遺産が集められて再建されているペルガモン博物館を見学した。「ゼウスの大祭壇」や「バビロニアのイシュタル門」(写真 I-15) などの遺跡と共に発掘されたものの中に水差しや碗など現在のヨーロッパの茶文化の源流と思われる品が展示されており、古今東西を問わず日常生活に欠かせないものの価値観についての考察を深めた。(写真 I-14)

視察旅行の終わりにプラハに出かけた。中世の歴史を刻んだ旧市街地に高麗人参茶や日本語「SAYONARA」の見えるアジアの茶・茶器の並んだショーウィンドウがあった。

(写真 I-16)



写真 1-14 紀元前 2 世紀の水差し、カップ  
(2004-9-8 於：ベルリン ペルガモン博物館  
撮影：柳沢信芳)



写真 1-15 パビロニアのイシュタル門  
(2004-9-8 於：ベルリン  
ペルガモン博物館 撮影：柳沢信芳)



写真 1-16 アジアの茶器の並ぶプラハのショーウィンドウ  
(2004-9-10 於：プラハ 撮影：柳沢信芳)

## 古賀政男音楽博物館

(東京都渋谷区 2004 年 8 月 22 日 大槻／2006 年 2 月 26 日 柳沢)

この施設では、日本の大衆音楽がいかにして創造されたかを彼の生きた時代・文化的背景とともに把握した。とりわけ作品を作り上げる上での演奏者、歌手とのコミュニケーションや、一般の人々の求める音楽についての考察を通し、今後の茶歌再創造と奏演による地域活性化に向けての参考になった。

## 3 現代的な奏演に関する施設と先行事例

### (1) 施設

#### ヤマハミュージック東京

(東京都中央区 2004 年 7 月 25 日 柳沢)



### フュッセン市立博物館

(ドイツ、フュッセン 2004 年 8 月 29 日 柳沢)

### ハイデルベルク書店

(ドイツ、ハイデルベルク 2004 年 9 月 2 日 柳沢)

### ライプチヒ楽器博物館内CDショップ

(ドイツ、ライプチヒ 2004 年 9 月 4 日 柳沢)

これらの関連施設等では、古今東西の奏演に関する資料収集や奏演を支えてきた楽器（ピアノ、ヴァイオリン）について、製作現場でのポリシーやその技術の一端に触れたほか、関連資料収集を行った。これらを通じて、奏演の幅広い可能性を再確認するとともに、楽器の特性を活かした奏演技術を向上させるための参考になった。

### 大阪音楽大学附属楽器博物館

(大阪府豊中市 2004 年 11 月 22 日 柳沢)

これらの関連施設等では、古今東西の奏演に関する資料収集や奏演を支えてきた楽器（ピアノ、ヴァイオリン）について、製作現場でのポリシーやその技術の一端に触れたほか、関連資料収集を行った。これらを通じて、奏演の幅広い可能性を再確認するとともに、楽器の特性を活かした奏演技術を向上させるための参考になった。

### メトロポリタン美術館

(ニューヨーク 2005 年 9 月 3 日 柳沢)

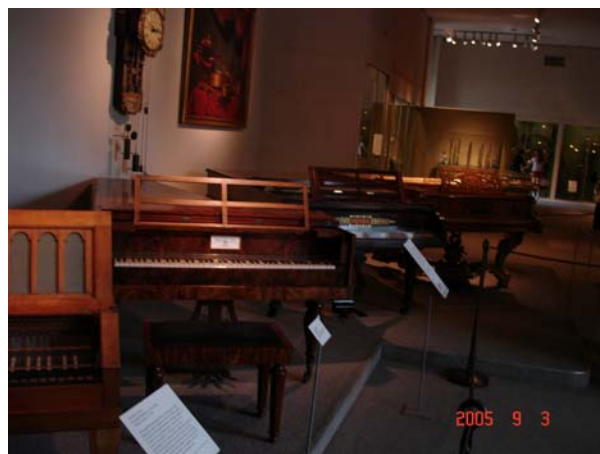


写真 I-17 18 世紀の鍵盤楽器 (2005-9-3  
於：メトロポリタン美術館 ニューヨーク  
撮影：柳沢信芳)

世界 3 大ミュージアムの一つとして挙げられるこの美術館には 5000 年にも及ぶ人類の文化遺産が納められている。館内はアメリカ美術、エジプト美術と 20 の部門に分かれているが、その中に楽器の展示室があった。管弦楽器をはじめ、オルガン、クラヴィノーヴァ、現代に至るまでの様々な鍵盤楽器が展示されており、貴重な美術品と同じく扱われているこれらの楽器を見ながら、アメリカにおいての音楽の位置づけが感じられた。

## ボストン美術館

(ボストン 2005 年 9 月 8 日 柳沢)

ニューヨークのメトロポリタン美術館に比べると外観は小規模であるが、貯蔵品の量や展示品の質の高さでは匹敵する美術館である。世界のアートに並んで中国、日本の展示室がある。楽器も豊富に揃っており、中国楽器と和楽器を比較することにより、長い年月の中での楽器の形態の変化や伝播の推移を観察することが出来た。(カラー写真 1, 3, 4 参照)

## ベーゼンドルファー社

(オーストリア、ウィーン 2004 年 8 月 25 日 柳沢)



写真 I-18 ベーゼンドルファー工場見学 (2004-8-25  
於：ヴィーナーノイシュタット 撮影：柳沢信芳)

またウィーンでは、郊外のヴィーナーノイシュタットにあるベーゼンドルファーピアノ工場を訪ねて、ピアノ製作の作業工程を見学した。(写真 I-18) 現在存在するピアノメーカーでは最古のメーカーで、1828 年の創業である。ほとんどのメーカーがオートメーションで大量生産をしているのに対し、ここでは手作業で製作が行われていて年間 450 台程度生産しているとのこと。モーツァルト、ベートーヴェン時代のピアノの響きを現在に伝える希少なこの楽器の製作過程を見ると、木材を可能な限り有効に使用し、支柱枠（ピアノの側面）には煉瓦積み工法を用いて弦の張力に耐えるようにするなど、非常に手の込んだ作業工程で行われて、これでは 1 台作るのに 1 年以上かけていることも当然のこととてうかがい知ることができた。ウィーン中心地に戻って 4 区にあるベーゼンドルファーホールで演奏して、このフルコンサートピアノの響き、タッチの変化による音質の違いについて体験した。(カラー写真 12 参照)

## N.Y ベーゼンドルファー

(ニューヨーク 2005 年 9 月 10 日 柳沢)

ニューヨークデザインセンター9階のベーゼンドルファーショールームを訪ねて、支店

長の FELDMAN 夫妻に話を聞きピアノを試弾させてもらった。スタインウェイが多く使われているアメリカであるが、近年ベーゼンドルファーに関心が寄せられてきているとのこと。音楽大学、音楽ホールのほか、ジャズクラブのブルーノートで最近使われ始めたとの話をうかがった。音楽愛好家の中に、長い伝統を保っているベーゼンドルファーの響きを求める気運が高まっているとのことであった。(カラー写真 10 参照)

## (2) 先行事例

### [1] 日本の演芸

#### 日本歌曲コンクール

(東京都台東区 奏楽堂 2004 年 5 月 23 日 大槻)

#### オーストラリア・アボリジニのレクチャー付き演奏会

(東京都港区 国際文化会館 2004 年 5 月 26 日 小西、[ツォク])

「日本歌曲コンクール」では、若手作曲家による日本語の詞を楽曲のなかで活かす試みとその奏演の現代性について研究した。また、レクチャー付き演奏会は、オーストラリアのレインフォレストレーションという観光施設で文化紹介をしている 2 人のアボリジニが招聘されて行われた。これにより、アボリジニが出身部族を越えて民族文化を再創造している実態と、その可能性について学んだ。

#### 現代ピアノ作品のタベ

(東京都江戸川区タワーホール船堀大ホール 2004 年 7 月 5 日 大槻)

佐藤真他 5 名の邦人作曲家の現代ピアノ曲を聴き現代的奏演に関する貴重な音源情報を得た。

#### 東京アカデミー合唱団「J. S. バッハ《マタイ受難曲》全曲演奏」

(東京都渋谷区 オペラシティコンサートホール 2004 年 7 月 11 日 大槻)

#### 石川プロスによる箏、尺八による演奏

(東京都新宿区 角筈区民ホール 2004 年 7 月 26 日 柳沢)

#### 「修善寺物語」

(東京都中央区 歌舞伎座 2004 年 7 月 27 日 柳沢)

#### 青年歌舞伎公演「一ノ谷ハナ軍紀」

(東京都中央区 国立劇場小劇場 2004 年 8 月 23 日 大槻)

#### 文楽 9 月公演「恋女房染分手綱」

(東京都中央区 国立劇場小劇場 2004 年 9 月 12 日 大槻)

## 永井彰リサイタル

(長野県佐久市臼田町 2004 年 10 月 31 日 柳沢)

現在活躍している邦人作曲家の音楽を鑑賞することにより、日本の音楽素材を現代化するための奏演技術や表現方法について、理解を深めた。

## 新作能「利休」

(静岡市グランシップ中ホール 2004 年 11 月 3 日 大槻・柳沢・小西)

静岡県文化財団が運営にあたるグランシップの自主事業の 1 つに、毎年行われている能楽鑑賞教室がある。これは、希望者がプロの能楽師から仕舞など能楽の基本を学び、約 4 ヶ月後に一般観衆に披露するというものである。このように、グランシップでは市民に日本伝統古典芸能に親しみをもってもらうためのイベントも開催されている。今回の「利休」は、お茶の産地・静岡の特徴をも鑑みて、舞台上でお手前が披露された後に舞台が展開するという異色の作品であった。このように、地域の文化と融合させるかたちでの伝統芸能再創造という方法に大きな示唆を得た。

## [2]海外の演芸

### 海外の演芸

#### 第 9 回太平洋芸術祭

(パラオ、コロール 2004 年 7 月 22 日～7 月 31 日 小西 [井谷])

太平洋芸術祭は 4 年に一度太平洋諸地域の持ち回りで開催されるイベントで、各地の芸能パフォーマンスをはじめ、カヌー競走や入墨実践、郷土料理の試食会など参加各地域からさまざまな文化要素が披露され、相互理解と地域の協調を目的に行われている。小西は第 7 回（於：[西] サモア）、第 8 回（於：ニューカレドニア）にも参加したが、主催国のおかれた状況や考え方によって展開の仕方には多様性が見られる。今回のパラオでは、国民全体が一致団結して太平洋芸術祭に取り組んだことが明らかであり、至るところで細やかな配慮が見られた。芸能パフォーマンスに関しては、参加国がどのような意図をもって参加団体を選出してきたかによって、同じ地域の代表団でも同じ芸能は二度と見られないことがしばしばである。なお、主催国・パラオではこれを契機に過去の伝統芸能の復興や新しい芸能の創作も行われた（カラー写真 15、16、17 参照）。

#### ベルリンでの演奏会（ドイツ、ベルリン 2004 年 9 月 柳沢）

ベルリンで次の 2 つの演奏会を聴いた。

##### ① 2004.9.7 於：フィルハーモニーホール

オーケストラ：Staatskapelle Berlin

指揮：Daniel Barenboim

ヴァイオリン：Maxim Vengerov



メンデルスゾーン作曲、バイオリン協奏曲作品 64 と、シューマン作曲交響曲第 4 番作品 120 の演奏が行われた。夏休み明けの演奏会シーズンの幕開けのこの演奏会を、会場満員の聴衆が埋め尽くし、自国の作曲家の作品に聞き入っていた。

② 2004.9.9 於：フィルハーモニーホール

ベルリンフィルのメンバーによるジャズコンサートが行われた。ヴァイオリン、ヴィオラ、ヴィブラフォン、コントラバス、打楽器から各一人ずつとバリトン歌手によるコンサートであった。ドイツのトップのクラシック演奏者が、ジャズに挑んでいる様子を見ながら、ドイツにおけるジャズのあり方、現代の音楽ニーズについての考察を深めた。

## ブロードウェイ

(アメリカ合衆国、ニューヨーク 2005 年 9 月 2 日 柳沢)

ミュージカルの本場、と言われているとおり、ニューヨークのブロードウェイ界限には劇場が立ち並びそこには公演のポスターが貼りめぐらされて行きかう人々の目を引きつけている(写真 1-20、カラー写真 24 参照)。劇場リストには 33 の劇場名があり、ほとんどが 1000 席を超えるという。そのなかのひとつ、Lunt Fontana Theater でミュージカル《美女と野獣》を観覧した。写真 1-19 はその観客席の様子であるが、クラシック演奏会のように正装して来ている様子はなく、くつろいだ雰囲気の中でミュージカルを楽しんでいた。ステージでの公演はさすがに才能あふれた脚本家や俳優によるものだけに、迫力に富んだ見ごたえのあるものであり、音楽表現についての考察を深めた。



写真 1-19 ミュージカルの観客席  
(於：ニューヨーク Lunt Fontana Theater  
2005-9-2 撮影：柳沢信芳)



写真 1-20 催しのポスターを見る人々  
(於：ニューヨーク、ブロードウェイ通り  
2005-9-2 撮影：柳沢信芳)

## 音楽大学の視察 (ニューイングランド音楽大学、バークリー音楽院)

(アメリカ合衆国、ボストン 2005 年 9 月 7 日 柳沢)

ボストンで世界的に知られる 2 つの音楽大学を視察した。ニューイングランド音楽大学とバークリー音楽大学である。ニューイングランド音楽大学はクラシック音楽を専門とし

ているのに対し、バークリー音楽大学はジャズ、ロック、ポップスをはじめ、音楽のあらゆる分野にわたって教育プログラムを組んでいる。静岡大学の音楽科を卒業した後、アメリカに渡り、ニューイングランド音楽大学大学院を卒業した菊池智恵子さんにニューイングランドとバークリーの音楽大学を案内してもらい話を聞いた。

ニューイングランド音楽大学ではヨーロッパ・アメリカ系が 50%、韓国人が 40%、台湾人が 7.5%、中国人が 1.5%、日本人が 1.0%の割合とのことである。バークリー音楽大学では日本人学生が 10%であるという。この大学ではコンピューターミュージックの部屋及びミキシングルームを見せてもらい、学生がそれぞれノートパソコンを使ってコンポジットンを行っている風景を視察し、次代のニーズに沿った音楽創作及び表現方法について示唆を得た。

### (3) ストリートパフォーマンス

ウィーン (オーストリア、2004 年 9 月 26 日 柳沢)

街中でこのようなパフォーマンスの風景を目にする。日本でこの大きさのバラライカはめったに見られない。(カラー写真 27 参照)

#### ボストン Down town, Quincy Market

(アメリカ合衆国、ボストン 2005 年 9 月 6 日 柳沢)

アメリカでは、市街地の広場、公園のさまざまな空間でストリートパフォーマンスが行われているのを目にする。カラー写真 26 は手拍子に乗りながらその中の一人が躍動感あふれる演技をしているところである。

#### ニューヨーク ストロベリーパーク

(アメリカ合衆国、ニューヨーク 2005 年 9 月 11 日 柳沢)

カラー写真 23 のストリートパフォーマンスは、セントラルパークの中のジョンレノンの《IMAGINE》の碑のあるストロベリーパークで行われていたものである。碑には赤と黄色のバラが手向けられていた。公園内のいたるところで人が集まり、音楽のパフォーマンスが行われていた。「9. 11」の日の警戒心や緊張感は感じられなかった。

以上の古今東西の音楽会や公演を通じて、過去の芸術遺産を現代化するための奏演技術や表現方法、再創造するときの視点やエネルギー、場に応じた即興の展開方法などについて理解を深めた。これらによって、程度や手法の差はあるが普遍的ともいえる奏演の現代化の実態を確認するとともに、今後プロジェクトでの展開方法を考える参考になった。

## **（４）現地調査**

### **第１回国際小島嶼文化会議**

（鹿児島市 2005 年 2 月 5 日～8 日 大槻・小西）

黎明館体験学習場で、民俗楽器奄美大島三線の簡易版といえるゴータン及び薩摩琵琶について、どのような手法で地域学校社会へ伝えるかに関する情報を得た。また、鹿児島大学農学部農学研究科で開催された第１回国際小島嶼文化会議において、小西は太平洋・オセアニア地区の小島に於ける文化伝承や再興に関しての研究発表を行った。その成果については、別稿（Konishi 2005）を参照されたい。

### **民謡ホタに関する調査**

（スペイン、マドリッド市、サラゴザ市 2004 年 9 月 23 日～10 月 16 日 大槻）

王立マドリッド上級音楽院音楽学セミナーに滞在（エミリオ教授共同研究）。民俗音楽ホタに関する音楽的分析を行う。10 月 7 日からサラゴザ市での聖ピラール祭に於ける民謡ホタの伝統継承と再創造の手法について情報を得た。市文化広報担当者と接見しホタ・コンクール等地域活性化貴重な情報を得た（カラー写真 19,20,21,22 参照）。

### **日本たぬき学会での郷土芸能**

（愛媛県東予市中央公民館大ホール 2004 年 10 月 30 日～31 日 大槻・小西）

地域活性化へのたぬきの活用法。郷土芸能（小女郎たぬき踊り・津軽三味線他）地域活性化に於ける文化の役割について学んだ。（カラー写真 14 参照）

## **４．茶文化・茶歌に関する施設**

### **（１）日本の茶文化関連施設**

#### **金谷町お茶の郷博物館**

（静岡県榛原郡金谷町 2004 年 7 月 18 日 大槻・柳沢・小西〔ツোক、森、青野・土井〕

#### **国立国会図書館**

（東京都千代田区 2004 年 7 月 28～29 日 柳沢）

#### **京都御所**

（京都市上京区 2004 年 11 月 20 日 柳沢）

お茶の郷博物館では、茶業中心の博物館における国際的な視点や展示について学び、また民謡の PC 検索システムの事例を視察した。国立国会図書館では日本の歴史上における茶文化について調べた。京都御所では最も格式の高い建物、庭園、各部屋の装飾品を見ることにより、日本の歴史を通して象徴された文化様式及び茶文化について考察を深めた。

### **世界お茶祭り 2004**

（静岡市、グランシップ 2004 年 11 月 3 日 大槻・柳沢・小西）

3年毎に開催される「世界お茶まつり 2004」は今回が2回目で、実行委員会（静岡県農業水産部お茶室）が主体となって世界緑茶協会や静岡県茶業会議所その他多くのお茶関係業種団体の共催と農林水産省ほかお茶を産する外国公館等の後援を経て開かれた。ワールド O-CHA 縁日（世界のお茶やお茶に関係する食べ物が並び、味わえるバザール）フロアーでは既成のBGMが用いられているので、イベント用にオリジナル民謡再創造の必要性を感じた。（カラー写真 39 参照）

京都国立博物館（京都市 2005 年 11 月 27 日 柳沢）



写真 I-21 西洋建築の京都国立博物館  
（於：京都国立博物館 2005-11-27 撮影：柳沢信芳）

明治期当初の西欧化、近代化が進められていく風潮の中で、日本古来のもの、伝統の文化財を保護する目的で設立された博物館。考古、陶磁、彫刻など視察していく中で、日本の太古からの歴史を調査した。その中でたとえば和歌の書体の流麗さから日本人の持つリズム感やイントネーションについての示唆を得た。欧米の影響をほとんど受けていない時代の文化遺産を視察することにより、日本人の本来の感性に触れ、茶歌演奏への大きな指針となった。

## 桂離宮

（京都市 2005 年 11 月 28 日 柳沢）

桂離宮は、後陽成天皇の弟君・智仁親王が造営した別荘で、創建以来三百数十年の歳月を経てきた。当時盛んであった茶道の趣味を実現した一連の茶室には「わび」「さび」の雰囲気漂い、華麗で端正なたたずまいに日本人の美的感覚が見て取れた。松琴亭などの茶亭（写真 I-22）や楽器の間を視察しながら、音楽をする空間、自然に対する開放感から生ずる感性についての考察を深めた。



## 修学院（京都市 2005 年 11 月 29 日 柳沢）

後水尾の上皇の雄大な構想による理想の山荘として作られた修学院離宮には上・中・下の3つの御茶屋がある。写真 I-23 は下御茶屋の寿月観の一の間で、脇床は琵琶が置かれたところから琵琶床と呼ばれる。三の間が茶室になっており、女院の御座の間であったといわれている。



写真 I-22 松琴亭（茶亭）  
（於：桂離宮 2005-11-28 撮影：柳沢信芳）



写真 I-23 寿月観（茶屋）  
（於：修学院 2005-11-29 撮影：柳沢信芳）

## 銀閣寺

（京都市 2005 年 11 月 30 日 柳沢）

銀閣寺庭園の一角に「お茶の井」と称される湧水の所があり足利義政時代以来現在も茶会でこの水を使っているという。またその近くには七福神の1つで琵琶を弾ずる弁財天を祭った祠があり、寺とお茶、音楽についての関連性について考察を深めた。



写真 I-24 お茶の井  
（於：銀閣寺 2005-11-30 撮影：柳沢信芳）

## （２）韓国の茶文化関連施設

### 済州市済州民俗村博物館

（韓国、済州島 2004 年 12 月 12 日～15 日 大槻・柳沢・小西）

韓国のハワイと呼ばれ、温暖な気候、自然の豊かさ、海に囲まれた済州島は韓国本土とは別に独自の文化を形成してきた歴史がある。済州民俗村は 100 年前の済州の姿を再現し、100 戸余りの伝統屋敷と 8000 点の民俗資料を備えていた。ここでは、お茶に関するものは見ることが出来なかったが、続いて訪れたオスロックと比較することで民俗の歴史的な推移を推し量ることができた。

### オスロック 雪緑茶博物館

（韓国 済州島 2004 年 12 月 12 日～15 日 大槻・柳沢・小西）



写真 I-25 雪緑茶博物館  
（於：韓国 済州島 2004-12-13 撮影：大槻寛）

オスロック（o' Sulloc）雪緑茶ミュージアム（写真 I-25）緑茶に関する情報と韓国伝統茶文化の流れを集めた茶の博物館。真新しい建物で、一見して静岡県金谷の「お茶の郷」博物館と造りが似ている印象を受けた。緑がかった陶磁器の茶器が、唐草模様のものも含めて多数展示され、伝統と歴史を新しく認識できる展示やセミナーイベントが行われていた。

## （３）台湾茶関連等施設（茶芸館、坪林茶業博物館、順益台湾原住民博物館、故宮博物館）

（台北市ほか 2005 年 2 月 20 日～24 日 大槻・柳沢・小西）

昨年行った済州島での茶文化の視察に引き続き、台湾にて調査を行った。21 日竹里館・耕読園他台北市内の茶芸館を視察し茶文化と現代的奏演による音楽との一体的実践例の情報を得た。台北市内の茶芸間の視察では竹里館、耕読園、茶楽園を訪れた。竹里館では飲茶コースを体験した。9 ヶ月前から働いている新潟出身の若い男性が接客。台湾が高度経済成長に入った 1980 年代から飲茶店ができ始めたとのこと。専門学校もあるとのこと。急須にもお湯をかけながら中のお茶が冷めないようにするのは日本では見られない作法であっ

た。2種類のお茶を飲む。音楽は禅シリーズのものが流れていた。茶楽園では多種の茶の葉が用意されており、それぞれのお茶の香り、味を楽しむ雰囲気であった。これらの茶店では、飲茶にふさわしい音楽が流れていたのが印象的であった。(写真 1-26)



写真 1-26 茶楽園  
(於：台湾 台北市 2004-2-21 撮影：柳沢信芳)

また、市内のCDショップをみると茶をテーマにした曲が多数並んでおり、タイトルからして茶の取り持つ人々の生活の様子をうかがい知ることができた。タイトルの一例を挙げると、茶禅一味・興茶的対話、茶雨、茶道、茶酔、茶詩などである。

22 日北部茶業中心地にある坪林茶業博物館を視察し静岡県金谷市と韓国済州市の博物館展示の比較や民謡の発展的創造についての情報を得た。坪林茶業博物館は北部の茶業中心地にある(写真 1-27)。包種茶の産地である当地が町おこしのために設立したもので、福建省安溪風建築の四合院を再現した建物と、美しい江南庭園からなるお茶文化の殿堂である。テーマ館では茶事、茶史、茶芸の3大テーマが展示され、それぞれ製茶法のあれこれ、古今東西のお茶の歴史、お茶の風習と茶器芸術について視察することができた。また、静岡県金谷市と韓国済州市の博物館展示の比較や民謡の発展的創造についての情報を得た。



写真 1-27 坪林茶業博物館  
(於：台湾 台北市 2005-2-22 撮影：大槻寛)

23 日台北市順益台灣原住民博物館では高砂族と呼ばれた少数原住民の民謡や民族についての貴重な情報を得た。現在、台東の卑南（プユマ）族 9 世帯が昔の生活をしている。キリスト教の伝道、当時の農民の生活、狩猟生活について展示されていた。中でも「口琴」と名づけられた楽器は形も音の出し方も北海道アイヌの使っている「ムックリ」と似ているものであった。他に、鼻で吹く笛があった。24 日故宮博物館では、歴史的に貴重な中国全体の文物を見て茶文化の精神的背景に関故宮博物院では、歴史的に貴重な中国全体の文物を見て、茶文化の精神的背景に関する情報を得ることが出来た。特に、玉の名で呼ばれる石で作られた壺や食器の文化が、茶器にも多大に影響を及ぼしていることをうかがい知ることが出来た。

#### （４）ヨーロッパ、アメリカの茶文化関連施設

##### ツヴィンガー宮殿陶磁器博物館

（ドイツ、ドレスデン 2004 年 9 月 10 日 柳沢）

ツヴィンガー宮殿陶磁器博物館ではヨーロッパの茶器の歴史的変遷を掌握し、18 世紀初頭から東洋（特に中国）の影響が強く見られることを確認した。これらから、「茶歌」の再創造や演奏が、地域を越えた文化交流の手がかりとなる可能性についての示唆を得た。

##### アメリカの美術館等に展示された茶器

メトロポリタン美術館（ニューヨーク 2005 年 9 月 3 日 柳沢）

当美術館では、楽器の展示のほかに陶磁器の部屋が設置されており、芸術品としても貴



写真 I-28 19 世紀前期（1823－1842）のイギリス製のティーポットと絵皿（於：メトロポリタン美術館 2005-9-6 撮影：柳沢信芳）

重な食器、茶器が展示されていた。これらの多くは、ヨーロッパからのものであり、現在のアメリカ文化の形成についてヨーロッパとの関連性を強く印象付けるものであった。



ボストン美術館（ボストン 2005年9月8日 柳沢）

当美術館にも中国をはじめアジアの陶磁器が展示されており、写真 I-29 のように茶器に関するものも多くみられることから、茶文化に関しての関心の高さがうかがえる。



写真 I-29 清朝時代の茶碗  
（於：ボストン美術館中国の部屋  
2005-9-8 撮影：柳沢信芳）



写真 I-30 ヨーロッパからの陶器  
（於：ボストン美術館ヨーロッパの部屋  
2005-9-8 撮影：柳沢信芳）

写真 I-31 はヨーロッパの伝統のもの。ヨーロッパの雰囲気アメリカに持ち込んだ人々の思いが伝わる。又、1773年当地で起きたボストン茶会事件にまつわる事情をみると、お茶がアメリカ人の生活の中で必需品及び嗜好品として浸透している存在であることがうかがい知れた。